

## 「Y ロウ作戦」を読む

京都大学文学部 2 回生 山口聡太

ドラえもんには色々な楽しみ方があります。今回、お気に入りの一話というお題を頂きましたが、しかし一つを選ぶことはできませんし、あいにく今の下宿には漫画が数えるほどしかありません。そこで今、手元にドラえもんの 1 1 巻があるので、この中から「Y ロウ作戦」を選んで、この作品について自分がどこをどう楽しんでいるのかを書いてみることにしました。数あるドラえもんの楽しみ方のうち自分なりのそれを提示するという風な感じでしょうか。そのため、紹介・考察というよりは一種の感想のような感じになりますが・・・。

物語は空き地に始まる。ジャイアン監督の元に少年野球チームが結成されており、そのメンバーはのび太、スネ夫以下十数名、名付けてジャイアンズと曰うが、そのジャイアンズのミーティングのようである。ジャイアン曰く、ジャイアンズは今シーズンの最下位が決定的であるから、戦力の底上げを図ろうと思うという。ここで興味深いのは、「最下位」とあるので、どうもジャイアンズなるものは歴とした少年野球チームであって、他の幾つかのチームと勝ち点を争っているらしい。そう言えばジャイアンの母ちゃんがその後援をしている描写があったがあれはアニメの設定だったかどうか。

それでチームのメンバーらは各々困り顔をしているが、これは真に戦績の芳しくないのを患えているのか、或いは徒にジャイアンの威勢を畏れているのか判らぬ。彼らがジャイアンズに懸ける思いがどれ程かは考察に値する所である。のび太は独りバットを手にしてジャイアンの叱咤を聞いているが、これはのび太の空振りか何かで最後のアウトを取られたのであろうか。そもそもこれは他チームとの試合後の光景なのかも判らぬが。ジャイアンの怒りようは常のそれではなく、その頭上に汗の描写があるので、どうやら本当に焦っているらしいが、偶にはこのように彼のジャイアンが何かの本気で取り組んでいる所を見るのも良いものである。のび太等にとっては堪ったものではないであろうが。

次いでジャイアンは具体的な方策を衆に告げるのだが、その様子は四コマに分かって描写されるがこれは宛ら起承転結の方法に則ったものである。先ずその手を挙げて高らかに宣言して曰く、「これから二軍制度をとる」と。これが起。続いて手を上下に掉い動かし、歯ぎしりして目を瞑り、語気を荒らげて曰く、「成績の悪いやつはかたっぱしから二軍におとす」と。承である。次いで遽かに動作を止め、明後日の方向を向き、飄々と落ち着いた様子で二軍選手は球拾い専門であることを告げる。正に転に当たる。そして最後、衆に向かって手を広げ、良い選手がいたら連れてこいと命じて解散。綺麗に締まって結と為る。この四コマはジャイアンの表情動作が次々に変わって行って非常にリズムよく進み、且つ聞いているのび太等は面倒なことになったなあという所であろうから、真剣なジャイアンとの対比を思うとニヤニヤさせられる。そんなお気に入りの場面である。

各々解散していくが唯だのび太だけが顔面蒼白、絶望に満ちた顔つきである。家に帰ると、すぐにドラえもんに泣きついて、自分は一番下手だから確実に二軍落ち、昇格の手立ても思いつかぬ、これではもう永久に野球はできぬではないかと慨きわめく。先ほどの解散時、他にも増して動揺戦慄の貌があったのは、野球ができぬことを恐れてのことであったのだ。そもそもび太は勉強は苦手だから勉強は嫌いであるが、しかし野球は苦手であるが嫌いではない。注意を要する事項である。

のび太は泣き言とともに、ジャイアンは勝負に拘り過ぎてスポーツの真の目的(楽しむこと?)を忘れてしていると訴える。のび太は時に達観したように正論めいたことを嘯く所があり、この他にも屢々世の中の矛盾や不平等なることを憂えるような発言をするが、但しこれは自らが思い通りにいかぬことに対する愚痴言い訳の如きものであって、ドラえもんの道具を得、一たび立場を逆転すれば、先の高説は何のその、放恣専横の限りを尽くし、遂にはその悪報を被るのがいつものパターンなのである(笑)。

ドラえもんはのび太の言い分を聞くと、これに答えて言うには、何故努力もせずに自分が二軍に落ちると決めつけている、努力した自分がチームを引っ張ってやる位の気概を持つと激励すれば、のび太はこれに感じて涙を流して曰く「ありがとう！今のことばで目がさめたような気がするよ。ぼくはやるぞ！」と。これは信用できない。行動を始めるのはいいのだが、一度壁にぶつかればすぐに止めてしまうのがいつものそれだ。

さて気を取り直したのび太はバットとグローブを携え、意気揚々、階下に降り、将に表に出ようとする所、玉子さんがこれを阻んで曰く「勉強のほうがだいじよ。」。かくてバットとグローブは没収されてしまった！

のび太、確実に二軍落ちだと泣きわめく。しかし、二軍なる者は選手育成の場であるのに、この話の「二軍」という言葉には恰も選手追放の場、或いは落ちぶれ選手の墓場のような響きを感じられて笑ってしまう。実際、ジャイアンズの二軍はそうなのだろうが(笑)。

ここにおいて、ドラえもんがそのポケットに手を入れるや、のび太曰く「なんかでるころだと思ったよ」。先ほどまで愁訴は全て演技だったというのか！さてここに出でたる秘密道具は「Yロウ」。Y字型の蠟燭である。これを渡して頼み事をすれば相手は断り切れなくなるという。数ある洗脳道具の一つか。Yロウの名前は賄賂と蠟燭に由るが、子供の頃読んだ人は気づかなかったというのも多いであろうと思われる。

のび太はYロウを使って玉子さんからバットとグローブを取り戻し、遂に玄関を出でて表へ飛び出し、空き地に至って練習を始めたが、その内容はピッチャー、キャッチャーにバッターと多種多様である。しかし名投手ジャイアンがいる以上投球練習は要らぬのではないか(笑)。あと真剣な面持ちで滅茶苦茶な方向に球を投げるのび太は愛らしいというか。そんなのび太にドラえもんが罵詈雑言を浴びせるのもいつものこと。「そんなたまもうけられないの」「もっと走れ。へたくそ！」「のろま！」極めつけは「しかし、きみのへたくそはなみたいいのへたくそじゃないよ。」である。ドラのかくの如き辛辣の悪言は珍しくなく、屢々そのコマだけが抜き出されてネット上等で煽り等に用いられるのを見かけるが、余り

嬉しい用いられ方ではない。のび太は当然これに怒って「帰れっ！」と一喝すれば、ドラえもんはそそくさと帰ってしまった。家で泣きつづきのび太を諭して改心せしめ、それで以て練習に向かわせるまではいいのだが、ドラはその後がいつもよくない(笑)。なお、のび太は悪口を言いまくるドラえもんの頭をバットで以て搏いて抗議するのだが、これは相手が普通の人間だったらまずい。ドラえもんの頭は石の如く硬いからいい(のか?)のである。のび太はこれを承知でやったのであろうか。

のび太は独り練習を続けるがその成果は一向に頭れず、その表情は疲労に満ちているようだ。そこに球が的に中央に当たる。のび太は一瞬当たったと喜んだが、しかしその球は背後から(スネ夫の推挙する所の)スネ夫のいとこ(名選手)が投げたものであった。気づけばジャイアンスネ夫も空き地に来ており、ジャイアンはスネ夫のいとこの投球を見るに、吾が意を得たりと大いに喜んで曰く「これで見とおしがついたぞ。すぐに帰ってメンバー表をつくらう。」と。スネ夫は名選手を紹介したことを以て一軍が約束されたい。ジャイアンの表情は一切の蟠りから抜け出したかのような解放感に満ち溢れており、非常に嬉しそうで、野球に対する情熱がここでもまた窺える。

「これできました」とのび太は諦めかけたが、目をその足元に転ずると Y ロウが。そういえばドラえもん、何故か Y ロウを二つ取り出していた。一つはのび太に渡して玉子さんに使用したが、もう一つの方はドラがずっと手に持っている。玉子さん用一つで十分な筈なのになんでまた。ドラえもんはその道具の管理がいい加減過ぎるのはお約束の一つである。

のび太は Y ロウを持ってジャイアン家へ至ると、先ずは自分は何軍かを訊ねたがその答えは当然二軍だと。ここでのび太は「そんな！」などと驚いているが、どうも微かな希望は棄てていなかったらしい(笑)。但しその驚きの表情はそんなに甚だしいものではないので、大体は分かっていたのであろう。その確認を終えると、のび太はジャイアンに Y ロウを渡し明日のゲームに出すことを約束せしめた。一軍にしてではないのか(笑)。ただジャイアンは情に篤い人物であるから、Y ロウの如き洗脳系の秘密道具の効果は絶大になり、大袈裟に領収書まで用意してきたのを、のび太は「いらんいらん」と断った。何故だ受け取っておけばいいのに。ちなみにこの領収書、この後の展開によれば道に打ち捨てられたらしい。捨てるなよ(笑)。

次のコマ、スネ夫が大いに嘆いて曰く「こ、こんな、、、わからない話ってあるもんか！」。のび太の代わりに二軍落ちしたのはスネ夫。スネ夫は余り野球が上手くないのか、ぎりぎりではないか。ジャイアンにその不道理なることを訴えるも、ジャイアンは勿論重賂を受けていて聞く耳を持たぬので、スネ夫はそこで他のメンバーにこれを告げて彼等を語らい、大挙してジャイアン家に押しかけて尋問した。謎の領収書も見つかった！お前には収賄の容疑がかかっているぞ。観念して泥をば皆吐いてしまえ。しかし、ジャイアンは家に籠って「しらん！記おくにない！」「わすれた！」などと言って姿を見せぬから、仕方あるまい、それなら贈賄容疑者のび太の家に押しかけてこれを弾劾してやる。のび太はスネ夫以下大挙して家に至るを見、復た玉子さんに Y ロウを渡して表に出だし、スネ夫等を玄関先に拒まし

めて曰く「のび太は頭が痛くておあいできないそうです」と。こうしてのび太に会うことのできなかつたスネ夫等は外からのび太の部屋の窓越しから鞫問するも猶おその志を得ず、諦めて帰っていった。

彼等、スネ夫の為にここまでするとは意外と仲間意識が高いのか。贈賄の嫌疑のあるのび太に「はじをしれ！」等と誹っているが、しかしスネ夫が二軍落ちしたのも自分の実力ではないがそれは良いのであろうか。但しのび太が一軍入りしたのを聞いて、「これじゃまけるにきまつてる」と言う者が有るので、スネ夫云々よりものび太が入ったことを問題視しているだけかも知れぬ。それなら勝負への意識は高いというわけだが、スネ夫は居ても問題ないほどの実力はあるという訣か。

のび太は些か良心の呵責を覚えた風だが、開き直って明日は大活躍してみせるとドラえもんに宣言する。しかし翌日は雨になって試合は中止。ただのび太は Y ロウをジャイアンに渡して試合に出すことを約束しているので、ジャイアンがのび太を無理やり連れだし、のび太は雨中の野球練習をさせられる羽目になってしまったのであった。以て落ちと為す。

最後のジャイアンの目が怖すぎだ。

以上、自分なりのドラえもんの楽しみ方(読み方)を提示してみたつもりであるが、いかがだったでしょうか。たった一話とは言え、まだ語りたいことは山ほどありまして、例えば Y ロウは何の目的で開発されたのか、「良集書」とその内容について、玉子さんは Y ロウを渡された時手に何か持っているが何をしていたのか、ドラえもんにおける少年野球名選手キャラの印象の悪さ、のび太のジャイアン家への訪ね方(窓越しに会話している)、ジャイアン家の造り、雨中傘も差さずに呆れ顔するドラえもんについて、泣き言するのび太の表情変化、良心が咎めてきたのび太の心情状況・・・など限りがありません。しかし書いてみると始めの一コマで半ページも使ってしまう、この調子だと何十枚も使ってしまう、と書いて泣く泣く色々カットすることになりました。

今回の読み方は主にキャラクターの心情変化と物語の設定に重点を置いたものでしたが、別にいわゆる「少し不思議(SF)」の観点からの楽しみ方もあります。これは学問とも大いに通ずる所ありと思っているのですがそれはまたいずれ機会があれば。

